

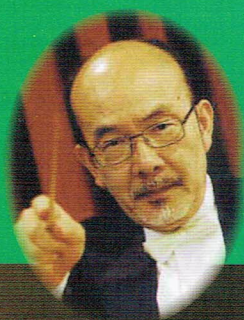
モーツァルト室内管弦楽団

第192回定期演奏会

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉アンコール

《魔笛》

K.620 全曲 一再々演



《指揮》

門 良一

W.A.Mozart „Die Zauberflöte“ KV620

台本:エマヌエル・シカネーダー / Text von Emanuel Schikaneder
(全曲・準オペラ形式・原語上演 セリフは日本語)

ザラストロ	松下 雅人(バス)	第一の侍女	白石 優子(ソプラノ)	合唱	モーツァルト記念合唱団
夜の女王	四方 典子(ソプラノ)	第二の侍女	櫻井 孝子(ソプラノ)	合唱指揮	益子 務
タミーノ	諏訪部匡司(テノール)	第三の侍女	山田 愛子(メゾソプラノ)	管弦楽	モーツァルト室内管弦楽団
パミーナ	鬼一 薫(ソプラノ)	第一の童子	大嶋真規子(ソプラノ)	コンサートマスター	釋 伸司
パパゲーノ	西尾 岳史(バリトン)	第二の童子	山田 千尋(ソプラノ)	指揮	門 良一
パパゲーナ	西田真由子(ソプラノ)	第三の童子	麻生 真弓(メゾソプラノ)	演出	西垣 俊朗
弁者、僧	萩原 寛明(バリトン)	第一の武士	西垣 俊朗(テノール)	制作	西垣 俊朗/益子 務/門 良一
モノスタトス	橋本 恵史(テノール)	第二の武士	西垣 俊紘(バリトン)		



2020.

1/13 (祝) いずみホール

3:00pm開演(2:30pm開場) 入場料:一般 ¥5,000(指定席)/学生 ¥500(当日限定数発売)*小学生よりご入場いただけます。

※開演10分前より指揮者によるプレトーク有

JR環状線「大阪城公園」駅から3分、「京橋」駅から7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から5分。
有料駐車場完備

主催◆NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org>

特別協賛◆株式会社高松コンストラクショングループ 協賛◆いずみホール[一般財団法人住友生命福祉文化財団]

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 e-mail:artists@gol.com

〒530-0041大阪市北区天神橋3-3-507 URL:<http://www.oaa1985.com/>

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645(電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188 ジェット&あ 0570-02-9999(Pコード:166-085)
ローソンチケット 0570-084-005(Lコード:52640)

*大阪アーティスト協会は世界の子どもたちの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。

《魔笛》再々演に期待する

門良一指揮モーツァルト室内管弦楽団(MKJ)が、第168回定期(2016年1月10日)と第172回定期演奏会(2018年1月14日)で取り上げた《魔笛》を再々演するという。このところ好演が続くMKJ定期の中でも、この二つはハイライトというべき秀演で、ほぼ同じキャストで感動が蘇るかと思うと胸がワクワクする。歌手の中で注目すべきはパミーナの鬼一薫で、伸びのある透明な声は清純なこの役にふさわしい。松下雅人(ザラストロ)、四方典子(夜の女王)、西尾岳史(パパゲーノ)、諏訪部匡司(タミーノ)、萩原寛明(弁者)は、安定した歌唱でそれぞれの役どころを楽しませてくれるだろう。三人の侍女と童子は、《魔笛》に欠くことのできない魅力的なアンサンブルを聴かせるに違いない。門良一とMKJも、上質で勘所を押さえた解釈で全体を引き締めてくれるだろう。前回、前々回を上回る深い感動を聴き手の心に届けてもらいたい。

横原千史(音楽学者・音楽評論家)

大好評の《魔笛》の再々演！

2016年1月の第168回定期演奏会、2018年1月の第180回定期演奏会におけるモーツァルトのオペラ《魔笛》の演奏は、どちらも空前の大好評を得た。関西の実力派を総動員した歌手陣と門良一指揮のモーツァルト室内管弦楽団による極めて上質の演奏もさることながら、それまでの「演奏会形式」から一歩抜け出した「準オペラ形式」ともいうべき上演スタイルが、その好評の最大要因であろう。暗譜をした歌手が台本に沿った動きをするだけで、舞台装置も本格的衣装もなしの舞台で見事にオペラを演出できるのである。「これはもうオペラそのものだ！」という感想が聴衆から聞かれたのも納得できよう。2年前の再演時とほとんど変わらぬキャスティングでお届けする新年の豪華な贈り物にご期待あれ！

モーツァルト室内管弦楽団／指揮:門良一 *Mozart-Kammerorchester Japan / Ryoichi Kado, Dirigent*

1970年に指揮者 門良一によって設立され、50年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シブリアン・カツェリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を、さらに19年からは〈創立50周年シリーズ〉を開始している。2017年2月にNPO法人となる。